

明るい町づくり

— あいさつ —

西臨寺住職

四日市 荒本 恵 宗

山ふところに抱かれたこの大代も、時代性と共に大きく変化しようとしている。農山村の一番すぐれたところは挨拶によって、互いに親密な結びつきがあつて、助け合う強い連帯感があつたことである。戦後の農地改革や民主的な風潮は、己中心おのれの意識や生活態度に変わりつつある。

だから失われてゆくころとする古きよきものをもう一度ということで、明るい町づくり運動の提唱をしなければ、暗く閉鎖的な人間関係に落ち込んでしまふのです。

挨拶は、本来人間の心の中にあるものが、自然に言葉として、口から出てくるものだから、その形を教えても、真に助け合う連帯感を生れてこないと思ふ。とは言ふものの形から入つて、

その中味まで高めるところだつてできるから無意味とは思わない。

挨拶とは人が他人と行きあい、また別れるときに言葉・態度によって、尊敬、親愛、友情を示すための伝統的行動様式と辞書にある。日本に於ける挨拶の文字は、中国禅僧の用いた漢語が、五山の禅林で使用されたが、単に受け答えの意味であつた。しかし、今日なにげなく使いながらしている挨拶の言葉にも、古い時代の民衆が、どんなに心くほりをしたか、うかがわせるものがある。例えば、「おはよう」は、早く起きて勤勉だねという気持ちが込められている。挨拶は言葉づかいのみならず、その際の身ぶりについても、古くはずいぶんやかましく言われていた。そのように相手に警戒心を持たせぬよう細かい心づかいをしたものである。古代へブライでは、「平和であれ。」と挨拶を交わした。人々の警戒心を取り除くことは、平和教育の根本である。単に口先きに、言葉として出てくるものだけでは挨拶とは言えない。挨拶を心から素直に交わされる地域社会、明るい町づくりは、その根本に美しい心を育てることが、肝要である。現在

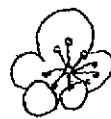
の日本の繁栄も、その根本が、仏教精神を中心とする美しい心が育くまれ、科学技術革新によって実を結んだと解しても過言ではあるまい。

挨拶を心を通してしっかりとできる子どもを地域全体で育てることは、やがて国際社会に通じる人間の育成にもつながると思うのである。

はるかなる節分

祖式小学校々長

上飯谷 原 田 萬 里



今年も雪のない節分となりそうです。不思議な国にでも行つたようです。それは私が子供だった頃、昭和十年前後は雪のない正月、スキーを履かない節分でありませんでしたよね。

飯谷のお宮は八辺八代姫命が祭神であることを教えて下さったのは門脇一男先生でした。小学二年生の頃でした。その頃から私の心に誇らしいお宮として焼き付いています。杉の太木、茂った楓、大きな石の手水鉢、老松の幹の皮を指で剥くと不思議な形が、それも一つとして同じものはなく、夢でも見ているように一心に遊んだものです。

あの頃の節分の日には低学年だったのが早く学校から帰り、母の炒った豆をもってスキーを肩に宮に行きました。拜殿では紋付を着た男の人が火鉢を囲んで居られたことを憶えています。私達は拜殿で豆をまき、よその人が参拝してまいてくれる豆をポケットに一杯拾ったものです。飯谷の新宅のおばあさんは豆の外に、ゴマ粒入りの煎餅をまいてくれました。とても優しいおばあさんであつたことを思い出します。夕方、雪が凍る頃スキーで一氣に宮の参道を次々と滑り降りたものです。実に爽快でした。父の作ってくれたスキーは友達とは違ってスマートで私の秘かな自慢で長く大切にしましたものです。

旅行好きな父は、毎年のように杵築きつきの節分祭に行っていました。夜半に起き母の手作りのそばを食べ歩いて行くのです。どこまで歩いたのでしょうか、大田駅までだったのか私にはわかりませんでしたが、子供心に何だか遠くまで行くような気がして、無事に帰ってほしいと祈るような気持でいたことを思い出します。半世紀も昔の思い出。

「ホトトギス」掲載の句

。母のこと 思う夜なり 蟹飛ぶ

。梅雨空に 母昇天の 煙ゆく

(護母百句を志したが果しませんでした)

故郷を恋うる詩

。故郷は藍より碧あざき秋の空

。故郷の山高こうして冬がすみ

成人病対策について

大田市保健婦 黒 谷 寿美枝

脳卒中で、突然意識不明になつて倒れたとか、ある日、半身の手足の自由がきかなくなつたとかいうことをよく聞いたり、身近に脳卒中や心筋梗塞を起した人をもっている人も多いと思ひます。働き盛りに倒れても困るし、年をとつてからねたきりになつても大変です。脳卒中や心臓病の原因として最も重要なものは高血圧です。血圧が正常な人に比べると、高血圧の人では脳卒中は10倍、心筋梗塞等は5倍も多く起こしています。

◎成人病予防は高血圧の予防から
あなたは自分の血圧を知っていますか？一度も測つたことがないという人はぜひ測つて下さい。高血圧だとい

われているけれども何も症状がないからと放置したり、治療を勝手に休んだりしている方はありませんか？

脳卒中や心臓発作で倒れた人を調べてみると、血圧を測つたことがないとか、高血圧があるけれども放置しているとか、治療を断続的にしかしていない人の中から発症している例が多いようです。

◎発作のひき金となりやすいもの
脳卒中、心臓発作のひき金となりやすいものとして次のことに気をつけましょう。

過労、心配事、興奮、長時間の緊張、過度の飲酒、夜ふかし、急激な寒さ。

- ◎高血圧予防のために
- ①うす味と食事のバランスに気をつけよう
 - ②ストレスを早めに解消しよう
 - ③規則正しい日常生活
 - ④酒はほどほど、タバコは禁煙
 - ⑤寒冷対策に心がけよう
 - ⑥適度な運動を毎日続けよう
 - ⑦定期的に血圧をはかろう



都市と「ふるさと」を結ぶ交流

—ふるさと見直しと、活性化を目指して—

公 民 館

「ふるさと、なんと懐かしい言葉であらう。」朝に夕に眺めた大江高山。「里帰りには一番先に目に映る緑の山碧い空、川、一生忘れることは出来ない。」是非一度帰り度い。

昨年から始まった郷土出身者便りの郷愁への第一声です。

大代町には東京を始め、京阪神、山陽、九州など広い地域に亘って活躍されている方々が数百を超えます。これらの方々と交流を図って行こうと館報「ひろば大代」の編集委員会の話し合いで月毎の便りが送られる事になりました。

何と東京にだけでも百名以上の方が在住されている事が分りました。

これをきっかけに遂に昨年11月6日、「東京石見高山会」が発足するに至りました。館長外、地元から五名の方々が出席され盛大なレセプションが開かれました。席上「今日の過疎を招いた責任の一環が吾々にもある。何とか地

域の活性化に役立ちたい」「ふるさとの産物も味わって見たい」「便りも充実して欲しい」など嬉しい言葉が次々と交わされました。出席された藤井房子（運営委員）さんは「肩を組み、ふるさとの唄を合唱し乍らの別離はともつらかった」と、当日の感動の極みを綴っておられました。

さて本年度、大田市の「いきいき町づくり事業」に市の援助を願って「ふるさと」と都市を結ぶ交流事業」の計画を立てました。近く異動公民館を実施して地区毎に話し合いに出かける予定になっています。

お互いに心せわしく、何思わず過している毎日ですが、私達の郷土は豊かな自然や風土に恵まれ物的、人的に測り知れない多くの優れたものが有る事を再発見した様な感じが致します。この運動が大代町の活性化に繋がる事を目指して、皆んなで努力したいものと思えます。

3月少年健全育成指標

「よその子にも やさしさと酷しさを」

昭和60年度

愛の袋配分報告

民生協議会 森 協 司 朗

昨年末皆様方の暖かい愛の袋が次の様に寄せられました。

恵まれない方々に年末に配分致しました。誠に有難うございました。

記

一、金八八、九〇〇円（町内）

一、金 三、一〇〇円（市社協）

計九二、〇〇〇円也

配分世帯数二九戸、三五人

おしらせ



△講演会（婦人学級）

日時 3月9日午後1時30分

場所 大代公民館集會室

演題 「印度の旅から」

講師 天津義久先生（大田町）

△大代中学校卒業生激励会

日時 3月11日・10時

場所 大代公民館 集會室

講師 渡辺寛治先生（大森町）

マジック外